

巡検レポート・卒業論文・修士論文執筆要領

地理学教室

1. 論文の組み立て

表紙（タイトル、学生番号、氏名を必ず記す）

内容目次（章を単位としてページ数を記す）

表目次（全ての表にページ数を記す）

図（写真を含む）目次（全ての図にページ数を記す）

本文

序論：標題に関する研究史、自分の見解、本研究の意義、研究方法など

本論：総論的なもの

地域別，または事例研究

結論：総括

注

引用文献

欧文要旨

和文要旨

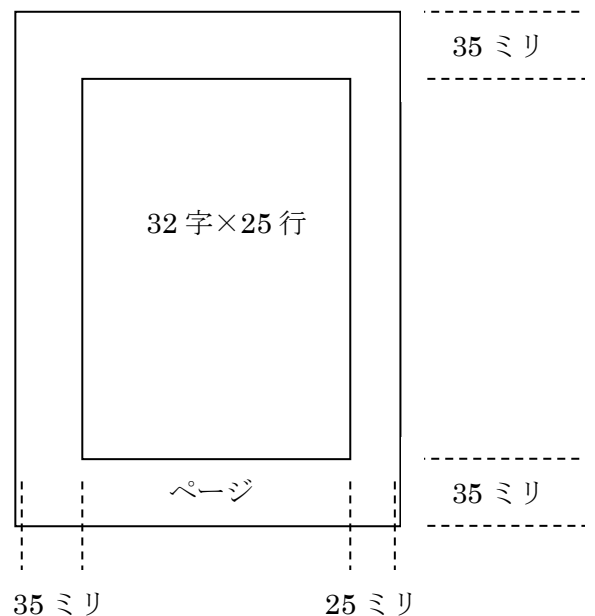
付録（必要があれば）

2. 体裁

(1) 印字 原則としてワープロを使用すること。なお清書の場合は鮮明な印字となるようにプリンターを調整すること。

(2) 用紙 A4判、横書き、製本して提出（横とじのこと）。

用紙は各自、適切なもの（変色・変質するおそれの少ないやや厚めのもの）を準備する。表面に印字、図表添付すること（裏面は使用しない）。左右、上下に余白をあげ、枠内に1ページあたり800字（32字×25行）で印字する。図表も枠内から大きくはみださないように添付する。ページ数は用紙の下段中央に図表ページも含めた通し番号をつける。マージン等は右図を参照。



- (3) 章節番号 本論は適切な章、節、項で構成すること。
 なお、章はローマ数字 I, II, III ……
 節はアラビア数字 1, 2, 3, 4, 5
 項はカッコ付き 1), 2), 3) で統一する。
- (4) 注 注は脚注にすべきものを本文に入れて冗長散漫にならぬように注意すること。通し番号を付し、論文の末尾にまとめること。
- (5) 文献 文献は論文の末尾に和文、欧文それぞれ分けてまとめ、下記にしたがって書くこと。**本文や注, 図表で引用したもののみ記すこと。**
 本文中の引用は次の例にならい、著者の姓（まぎらわしい場合は名と併記）、発表年、必要ならば引用ページを書く。

<引用例>

田中（1929, p. 10）はこれを……と呼んだ。
 辻村（1923a, pp. 30～34）によれば……
 国土地理院（1973）によれば……
 これらの研究（Yamasaki, 1922；辻村, 1923b）によると……
 ……という見方もある（Yamasaki, 1926；Schwind, 1965, S. 30）。
 共著の場合の例： 田中・幸田（1927）は……<2人の場合>
 田中ほか（1927）は……<3人以上の場合>
 Yamasaki and Tada（1928）は……<2人の場合>
 Yamasaki et al.（1928）は……<3人以上の場合>

文献表は邦文のものを先にし、著者名の五十音順に並べる。欧文のものは後にして著者名のアルファベット（著者本人の慣用綴りによる）順に並べる。同じ著者のものは年代順に並べる。同じ著者でも同一年のものがある場合には、引用順に a. b. c. ……を付して並べることを原則とする。著者が3人以上に及ぶ場合でも文献表では全著者名を列記すること。

<文献表の例>

・文献が邦文単行本の場合

著者名（西暦出版年）：『書名』出版社，総ページ p.

[例] 木内信蔵（1968）：『地域概論-その理論と応用-』東京大学出版会，370p.

・文献が欧文単行本の場合

著者名（西暦出版年）：書名（斜字）. 出版社名，出版社の所在地名，総ページ数 p.

[例] Johnston, R. J. (1979) : *Geography and Geographers -Angro-American Human Geography since 1945-*. Edward Arnold, London, 232p.

・文献が邦文編集書の中の一部である場合

3. 留意事項

- 卒業論文・修士論文は製本して提出するが、各提出期限時の提出は仮製本でよい。仮製本はA301の製本機で行うことができる。
- 仮製本をする前に、論文題目が、大学に提出した論文題目（変更届を提出した場合は変更届の題目）と一致しているか確認すること。
- 口頭試問のあと卒業論文・修士論文が返却されるので指示に従って修正し本製本する。本製本は自費で行う。
- よりよい卒業論文・修士論文を作成するために、担当教員との連絡を密にして、十分に指導してもらうこと。下書きなどを読んでもらうことも好ましい。
- 体裁などで不明な点があれば、過年度の卒業論文・修士論文を参考にすること。